

【掲載記事】170717 盛岡タイムス一面 「住まいに七ツ森ヴィレッジは」(雫石) .pdf

昭和44年12月1日第三種郵便物認可

盛岡タイムス

2017年(平成29年)7月17日 (月曜日)

住まいに七ツ森ヴィレッジは

雫石町が弾丸年度第1 地元の人々を味わう



重っこ料理を食べながら地域住民と交流するツアーの参加者ら

日本版CCRCは、首都圏などの在住者が、自らの希望に応じた生活を送るとも、地域社会において地域性に合った生活を送るとも、同町は政府が掲げる「重っこ料理」を味わう機会を設けた。ツアーは、同町の生活環境、魅力などを体験してもらうため2015年度から開催されており、17年度は3回の開催を予定する。17年度第一弾となる今回のツアーには、首都圏などから7人が参加。同町の七ツ森ヴィレッジ構想について説明を聞いたほか、重っこ料理や歴史など同町の魅力に触れた。

移住体験ツアーに首都圏など7人

日本版CCRCモデルプロジェクトとして、町有地14軒に七ツ森ヴィレッジの整備を計画する雫石町で16日、町への移住を志す人々を対象とした夏の雫石移住体験・交流ツアー(町主催)が開かれた。ツアーは、同町の生活環境、魅力などを体験してもらうため2015年度から開催されており、17年度は3回の開催を予定する。17年度第一弾となる今回のツアーには、首都圏などから7人が参加。同町の七ツ森ヴィレッジ構想について説明を聞いたほか、重っこ料理や歴史など同町の魅力に触れた。

七ツ森ヴィレッジ構想では、シニア向け住宅や若者向け集合住宅、グループホームなどの安心の住まいゾーン、地域交流センターやコミュニティ食堂などの活躍・交流の拠点を整備し、地域とつながりながら参加型のコミュニティの形成を図っていく。コミュニティに参加するステップとして、既に移住検討者らによる七ツ森ヴィレッジで安心して最後までくらし続けるしくみをつくる会が開かれている。今回のツアーも移住を志す人々に選択肢の一つとして、七ツ森ヴィレッジを紹介するとともに、地域住民との触れ合いを通して雫石をよき身近に感じてもらった。

千葉県から参加の中村和子さん(60)は、移住を考えた時に、年金暮らしでやっていけるか、仕事や住宅の問題がある。CCRCというものが、年をとっても安全に暮らせ、充実した生活を送れると聞いた。七ツ森ヴィレッジは、前向きな計画だと思われ、知らない地域に一人ぼつんと入るのではなく、みんなが新しい住民になるので、孤立ということもないのでは、と移住を前向きに検討していた。

静岡県からツアー初参加の笹沼利美さん(57)は「雫石はスキームのイメージしかなかった。こつこつと地元の方々と交流し、四季の豊かさや人の素朴な温かさがあると感じた。七ツ森ヴィレッジ構想は、土地が広くて密集しないで住宅が建てられると聞き、プライベートが保たれ、それがあってみんなで集う場があり孤立もせず、いい考え方だと思つたツアーを通じて雫石の魅力を感じていた。ツアーの運営企画をしたコミュニティが、フシフシの関由美子地域プロデューサーは「ツアー参加者は、シニア向けのCCRCのターゲットに入ってくるので、サービス付き高齢者住宅の条件にあるようにバリアフリーや緊急対応、生活相談が付いているのが安心という点も当然出てくる。そういう意味で、七ツ森ヴィレッジは紹介しやすい。移住

を考えた時に、単に水や空気がきれいというだけでなく、深く掘り下げた時に見える魅力も住み続けたい大きな要素になる。既に移住した方もそういうところをひかれた方が圧倒的。それを知る機会の一つになれば」と話した。

発行所 株式会社盛岡タイムス社 <http://morioka-times.com>
〒020-0015 盛岡市本町通3丁目9番33号 盛岡タイムス 検索
電話(代表)019-653-3111 ファクス019-622-5119